社会福祉法人 光寿会

2022年5月15日（1）

まんさく

第277号

発　行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197－84－2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字　元理事長 太田祖電

西和賀の桜は遅咲きですが、今年は4月の終わり頃が一番見ごろでしたねぇ♡

お花見からの…春のお仕事中♪

《令和4年春です！》

長い冬とコロナ禍で閉じこめられていた気持ちを解放してくれる青い空と桃色の桜。皆さんの笑顔はステキに♡
気持ちも光合性し、花壇の草とりにも精が出ましたね♪
貴重なる時、おかげさま☆

春は稼ぎ時！ばっちゃんたちの腕が鳴る♪

光寿会ホームページは『光寿会 にしわが』で素早く検索できます(^^♪

令和４年度の光寿会全体のテーマは「続・知る」

【事務】「①事務部門」 ☆氏家洋也☆

令和3年度下半期のイメージ像			
	テーマ	自ら出向き相手を知ろう	
	下半期理想像	目　標　①	目　標　②
		部署やユニットに出向き、自分の目で観て知ろう。	コロナ禍にある今、家族との繋がりを今一度大事にしたい。
	具体的な取組み（いつ、何を、どのように）	①オンラインおよび対面による面会のより良い環境づくり ⇒お年寄りと家族の面会を通して、その人に合った形を知る。 ⇒オンラインの通信環境の改善を進める。 ②部署やユニットからの要望などの実現に向け、より良いものにするため、自ら出向き現状を知る。	①ご家族からの電話対応の際、ご家族の想いを知る。 ②定期的にトピックスをアップできるように、ホームページ委員会のメンバーと情報を共有しながら取組む。

↓

令和3年度を振り返って		
	法人キーワードに対して	※『知る』ということは、とても大事だと思う。
	テーマに対して	※ 自分のことと関心を持ち、自ら知ろうという意識は大事にしたい。
	各目標等に対して	【目標①】 ①不具合が出ることもあったが、よりよい条件で面会ができるように、工夫や対処をして面会していただくことができた。 ①お年寄りの中には、パソコン画面に映るご家族の顔を認識することが難しいケースがあることを感じた。 ①オンライン面会は、会話が付添いの職員や周囲に聞かれてしまうため、あえて電話での会話を選ばれるご家族がいることを知った。 ②オンライン面会を繋ぐ際、ユニットに出向き担当する職員の要望を聞きながら行うことができた。 ②オンライン面会は、お年寄りの方それぞれに合った形があると思うことから、次年度は要望や改善がないか、ユニットへ聞き取りをお願いしたい。 【目標②】 ①ご家族の方の気持ちを考えながら、それぞれのケースで対応することができた。 ①施設から足が遠のいていかないように、丁寧な対応を心掛けることができた。 ②ホームページについては、個人情報に関することもあり、記事の取扱いなども含め、次年度に委員会で計画を立て、情報共有し進めたい。

↓

法人キーワード	令和４年度共通のキーワードは『続・知る』	
令和4年度上半期のイメージ像		
	テーマ	自ら出向き相手を知ろう
	上半期理想像	目　標　①	目　標　②
		お年寄りとご家族の面会について、その人にあった最良の形を知ろう。	家族との繋がりを大事に考え、何が必要か知ろう。
	具体的な取組み（いつ、何を、どのように）	①プライバシーを確保できる環境づくりを行い、お年寄りとご家族ともに安心して、オンライン面会を利用できるようにする。 ②ユニットにも要望などを聞き取りしてもらい、それを実現できるように環境づくりを進める。	①ホームページを通じて、施設やお年寄りの日常の様子を伝えられるような記事内容で、情報発信をする。 ②施設を身近に考えてもらえるよう、日頃から丁寧な対応を心掛ける。

全体テーマを基として各部署で目標設定しました

【生活】「①生活・ケアマネ部門」 ☆細川るみ子☆

令和3年度下半期のイメージ像			
	テーマ	『知る』を繋げる	
	下半期理想像	目　標　①	目　標　②
		①面会と外出等の充実	②お年寄りの過去と今が繋がるよう働きかける。
	具体的な取組み（いつ、何を、どのように）	①お年寄り・ご家族・職員それぞれの想いが繋がり合う。 ②それぞれの立場からの想いや願いがある事を知り、都度検討を重ねながら改善に努める。	①お年寄りの過去を知り、今の生活に繋げる個別ケアの実践を改めて働きかけていく。 〔現場の状況を知り、連携しながら〕 ②お年寄りの願いを知り、ユニットと連携して実現できるように働きかける。 〔誕生日に「その方をより知る日」を設定する等〕

↓

令和3年度を振り返って		
	法人キーワードに対して	※『知る』というキーワードは、事故防止対策委員会を通して、苑全体の「介護技術の向上」「教育の体制づくり」の必要性を知ることができた。
	テーマに対して	※ ご家族と介護職員の橋渡し役として、「繋げる」ことを十分にできなかった。 ⇒ 上記の点をより意識して、お話しを聴き、伝える事をしていきたい。
	各目標等に対して	【目標①】 ※コロナ禍での面会や外出について、制限の中での対応の検討を働きかけることができた。 〔終末期での面会、家への想いが強い方へのドライブ対応　等〕 →しかし、冬期間は外に出る機会を作る働きかけができなかった。「冬だから行けない…」ではなく、季節を感じて頂ける機会としても、実施できるようにしていきたい。 ※コロナ禍で、遠慮しているご家族も多く感じる。我慢していることもあるのではないか。 →そうした気持ちを聴き取っていく必要性を感じた。 ※身元引受人以外のご家族との情報共有が十分できていないケースがある。 →それぞれのお家の都合に合わせてではあるが、「家族間のつながり」の橋渡しにも努めていきたい。 【目標②】 ※面会の機会が中々ないご家族への近況報告の機会をもっと作っていく必要がある。 →定期的に電話で近況報告しながら、ご本人とも話して頂く　等 ※誕生日を「その方をより知る日」として考えてもらえるよう、もっと働きかけるべきだった。 →お年寄りの願いや想いを意識して聴き取ることを働きかけていきたい。 ※ケアプラン見直しのタイミングでしかフォーカスを当ててケア検討が成されない方もいる。 →リーダーや担当職員と連携して随時情報共有しながら、個別のケアを検討する必要あり。

↓

法人キーワード	令和4年度共通のキーワードは『続・知る』	
令和4年度上半期のイメージ像	テーマ	『知る』を深めて、つながりを回復する。
	上半期理想像	目　標　①	目　標　②
		介護技術の向上と教育の体制づくり	ウィズコロナ時代のつながりの回復
	具体的な取組み（いつ、何を、どのように）	①科学的介護『LIFE』の導入により、お年寄りの状態やケアの評価を実施〔モニタリング時〕 ②評価に基づき、『〔新規〕介護技術向上委員会』を中心に、その方に最適なケアを検討。 ③必要に応じ、介護技術向上のための教育の機会を提供。 ④これらを並行し、願いや想いに焦点を当てた「個別ケア」を実践するために、誕生日やその方を知る日を設け、ケアを創造する。	①ご家族への近況報告や意向確認の機会の増加〔3ヶ月のモニタリング時 等〕 ②お年寄りとご家族双方にとっての最適な面会方法の模索 ③ドライブ外出等、地域とのつながりの機会の回復

【ひやりはっと及び事故まとめ】（令和３年度下半期）

前回令和3年度上半期より『11件減』

事故内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外傷	14	19	21	19	18	17	**108**
転倒･転落	2	10	6	7	4	4	33
与薬	3	2	2	5	2	2	16
紛失･破損	4	1	3	1	1		10
管理ミス	4		2	1	2	1	10
見守りエラ		3	2	1		2	8
異食	1	1	2		2		6
点滴	1	2			2		5
経管栄養		2		2			4
誤嚥･誤飲	1			3			4
尿カテ					1		1
トラブル						1	1
合　計	30	40	38	39	32	27	206

場所	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
居室	21	29	20	27	22	16	**135**
浴室	3	3	6	6	4	3	25
廊下	2	3	5	1	4	2	17
ホール		2	4	1		3	10
ベッド	2	1	1	1		1	6
トイレ		1	2	1	1		5
湯の町茶の	1			1			2
介護室	1	1					2
エレベータ						1	1
茶の間						1	1
こまち広場					1		1
無し				1			1
合計	30	40	38	39	32	27	206

所見	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内出血	9	12	11	7	13	13	**65**
擦り傷	3		5	5			13
表皮剥離	1	1	2	3	1		8
切り傷		2	1	1	1		5
爪外傷	1	2					3
骨折		1		1			2
打撲		1	1				2
掻き傷			1				1
咬傷			1				1
無し	16	21	16	22	17	14	106
合　計	30	40	38	39	32	27	206

発生時間帯別	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
06:00 ～ 08:00	3	2		2		3	10
08:00 ～ 12:00	7	14	14	11	14	4	64
12:00 ～ 18:00	9	14	16	17	11	10	**77**
18:00 ～ 22:00	5	5	7	2	4	3	26
22:00 ～ 06:00	6	5	1	7	3	7	29
合計	30	40	38	39	32	27	206

要介護度別	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護Ⅲ	12	13	10	11	9	9	64
要介護Ⅳ	11	14	15	11	13	10	**74**
要介護Ⅴ	7	13	13	17	10	8	68

全体で見ると【**発生件数**】上半期比-11件と、ほぼ横ばいとなっている。内訳で変化が見られた項目として【**外傷**】が29件減少した反面、【**与薬**】+11件（上半期比320%）となり、うち約半数が2名のお年寄りに繰り返し発生していたことは、有効な防止策を講じきれなかった結果と思われる。また【**紛失・破損**】+9件（上半期比1000%）と、こちらも大幅に増加したが、内容としては約半数がひとりのお年寄りによる寝具・衣類の自損であった為、ほつれにくい素材及び形状への見直しを行った。

しかしこの間、骨折・入院を伴う介護事故が2件発生し、いずれも大変高齢なお年寄りの治療経過に多大な影響と後遺症を残す結果となった事から、改めて基礎的な介護技術の定着化に対する検証と、底上げを図るべく研修等の見直しを行い、今年度も継続して改善の為の取り組みに着手している。

想… 災害を捉える ～北海道から発信します①～

『被害者意識と裁判官のような私』… 寺澤三郎 さん

寺澤三郎先生は、光寿会理事長と大学時代の同期生。仏教学専攻で、広い視点から現実を見定める眼の鋭さは、より深みを増しています。この度、連載スタートです♪

～天災・人災に襲われ続ける時代にあって～
思い通りにならない世を生きる視点

① 被害者意識と裁判官のような私

「災い転じて福となす」という言葉など全く慰めにもならず通用もしない、天災・人災が起こり続け、私たちは身と心が苦しみと閉塞感で覆われた毎日を生きざるを得ない状況を強いられています。読者の皆様の中にも辛い状況で生活している方がいることと推察いたします。

私たちの思いや想定を超えた天変地異や災害を仏教では「能力不可思議」といいます。科学の発達していない時代、自然現象、特に大雨や大風は、昔は竜神が起こすと考えられていたので龍の力と表わされ、そのような現象がおきることの不思議（説明がつかないこと）をこのように受けとめたのです。

思いや想定を超えた事に出会うと、私たちはどうなるのでしょうか。

①途端に冷静さを失い
②周囲の様子や周りの人が見えづらくなり
③自分を防衛するため自己中心的になる

私はこのように考えています。冷静さを失うということは、私の思考回路が小さく狭く浅くなったり、停止するという事です。その事によって、物事を見る眼・言葉を聞く耳・情報を受け止める心が弱ったり濁ったり間違えたりしていきます。しかも気づかないうちに、その状態に陥っていくのでしょう。それが不安として私を覆います。その結果、自分を守る行動や思いに駆られていくと、これまた、自分では気がつかないうちにとても自己中心的な私になっているのです。

コロナの時代になって三年が経ちます。その間のことを振り返ってみると、私は様々な間違いを犯し、濁った眼・耳・心で生活してきたという事を反省させられます。マスク着用やワクチン接種の有無の論争。自分の考え方に合わない人を心の中でソーッと裁いています。まるで裁判官のようです。

感染された患者やその家族が一番苦しいにもかかわらず、〝気をつけないから感染するんだ〟と、心の声が起こってきたりもします。まるでこちらが被害者かのようです。

思いや想定を超えた事に出会ってしまった時、私たちは特に、被害者意識と裁判官になります。その私の意識が場合によっては、そのまま差別や偏見を生み出し、あらゆる人に辛い思いをさせてしまう状況を作り出していくのでしょう。

次のような先人の言葉があります。

「やり直すことはできないが、見直すことはできる」

私の濁った思いや間違った行動は元には戻らなくても、その事に気づく事、見つめ直すことは可能です。その事の大切さをコロナの世から教えられ、学んでいます。

（続）

《サブロー》

今月の登録者の方々
14名 様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

GWは桜がキレイでした♪…「ひなたぼっこの日常」

第1回『運営推進会議』〔書面会議〕

【委員の方々からのこえ】

《③に対して》
※町内でもあちこちで発症を聞きます。働いている方々のご苦労を想います。
※引き続き、公私にわたり適正に感染対策をお願いします。

《④について》
※コロナ禍での事業所の工夫の確認。地域に目を向けた努力目標を掲げ、利用者が活々できる様努めている。

～ 以下の内容に対して書面会議頂きました ～

① 光寿会基本理念・事業計画について
【賛：10名、否：0名】

② 利用状況および活動報告について
【賛：10名、否：0名】

③ 光寿会コロナウィルス感染状況・対応について
【賛：10名、否：0名】

④ 令和3年度「外部評価」の結果について
【ご意見・ご質問のみ】

おかげさまでした

寄附

★ 掃部 佳代子 様〔前 郷〕

寄贈

☆ 柏崎正浩 様〔盛岡市〕
☆ 三上 正 様〔盛岡市〕

面会

★ 家族〔窓越し〕
⇒ 延べ10名（4月1日～30日）

★ 家族〔オンライン〕
⇒延べ7名（4月1日～30日）

★=光寿苑、☆=ひなたぼっこ

光寿会へのご支援

光寿苑の新しいお仲間をご紹介いたします♪

田村シゲ さん

＊西和賀町
＊昭和のお生まれ

『共生の場』へようこそ♪

元気です！家族会♪

第102回

１０２回目は、この冬に天寿を全うされた家族会第５代会長・佐々木長二さんの思い出を振り返りたいと存じます。

【佐々木長二 氏】

私が光寿苑に就職した平成11年4月、総会の場で力強い声で会長挨拶をされていたのが佐々木長二さんだった。個性のかなり豊かな当時の家族会をまとめていらした姿が記憶にある。当時の家族会行事と言えば、昭和の香りがまだまだ強い時期で、ご家族の皆様と職員とが酒をくみ交わしながら語りあう場が沢山あった。

その中でも、長二さんの声とオーラはひと際目立っていた。しゃがれ声で、

「なや！苑長、そう思わねが!?そう思うべ！」

等と、涙しながら感情豊かに熱弁されているものだった。特にも印象深かったのが、元理事長・祖電氏の事を語る時だった。

「俺、祖電さん大好きなんだよ。仏教の精神とマタギの精神は相通ずるものがある事をよ、祖電さんは教えてくれだ。見事だった！」

と嬉しそうに話す方だった。

透析を必要とされるようになってからは、以前の力強さはなくなっていたが、光寿苑家族会総会にはコロナ禍前年まで議長の任のために来続けて下さった。

長二さんご逝去後、ご自宅にお参りに訪れた際、お身内からこう聴かされた。

「"俺、また議長お願いされだったや。"って嬉しそうに…。そして議長としての進行の練習を重ねて、総会に臨んでたんです。」

豪快さの裏側の努力も長二さんの魅力であった。（宣）

職員募集中

春から光寿苑の職員になりましたぁ、宜しくお願いしますね☆

ばっちゃんだば、いつも元気で歩いでるがら、若いっすもんね♪

オレがぁ！？
あいや、オレ恥ずがしでゃ！オメだば褒めるの上手だぁ♡

今年度は新しい職員を其々の職種で迎えられましたが、サービスの質の向上のためさらに募集中です☆

イラスト：1000

人あたりがよく、感謝の言葉でいつも職員に力を与えて下さったばっちゃんだった。そのおかげもあって、職員もまた、気どることのない会話で話せたことも、日常のよき思い出である。そのことがまた、丁ばっちゃんのユーモアを引き出す相乗効果と成っていた☆

皆当往生
―誰もが真実の生命（いのち）を生きる者となる
《大無量寿経》

第76回　丸田善明

自然法爾（じねんほうに）

プーチンのロシアがウクライナに攻め入った頃、私は妻と共にコロナウイルスに罹患し、保健所の指示で県立遠野病院に入院。軽症の肺炎と診断され、点滴と酸素吸入を受け、11日間入院。その後、完治し退院となった。

闘病中、ウクライナの戦況を聞いて過ごした。ロシア軍の砲撃によって焼き落ちる建物、路上に散乱する死者の姿を見ながら、戦争のすさまじさに恐怖を怒じ、「非戦平和」は遂に実現することのない"祈り"なのか？と虚しさを抱きながら、入院以来、繰り返して読んでいた「大無量寿経」の最終場面に出てくる「皆当往生」の言葉に、胸をつかれたのである。

釋尊は、後継者である弥勒菩薩に、「自分の罪を悔いて、如来に遇いたいと思う者は本当の幸せを獲られるだろう」と語る。弥勒が、「そのような者はどれだけいますか？」と問うと、釋尊は、「私たちの今いる世界には68億人、知りうる13の世界で、総数およそ2千3百億人超。「皆当往生」―誰もが真実の生命を生きる者となる―と言われる。

ウクライナの現実に悲観していたが、如来は決して断念しない。どこまでも《命》を信頼し、念じ続ける祈りの主体を忘れてはならない。

おわりに

5月7日、父の命日。毎年、碧祥寺では法話会を開いてきた。…だが、世情で今年は断念。それもあり、父の言葉をより回想した。

私が中学生の頃、ある受診で大病院のロビーに父と二人座っていた。目の前を汗だくになりながらモップ掛けしている青年がいた。一所懸命、仕務を果たそうとする姿だった。父は私に語りかけた。

「あの人、本当に一所懸命掃除してるよな。あの様な姿が尊い人なんだぞ。大人に成っても、職業や仕事内容で価値づける人間になるなよ。何の仕事でも真剣に取組んでいる人が本物（とうとい）って忘れるなよ。」

過去（ちち）に受けた教示（ほんもの）、今（わたし）に生きる。（丸田）

※本物は時を経て自分の中で成熟する。

光寿会では看護師・調理師等職員大募集(^^♪　お電話を 0197-84-2526